

第11回

ゾンビ映画研究会 「ゾンビ研究 —実学か虚学か」

日時 6月4日(土)
14:00~16:30
開催形式 Zoom

【概要】

「ゾンビ研究」と一口に言うものの、この虚実のはざまにある身体／現象をめぐるには実に様々な議論が展開されている。例えばゾンビを近代以降の戦争（とりわけ非対称戦争）における最悪の敵と見立て、これへの対処法を講ずるものがある。パロディとしてかと思いきや、それは存外、大真面目にゾンビに対する人類・文化の優位を説いている。例えば「哲学的ゾンビ」なる、人間の意識（qualia）のありやなしやを論ずるための学問的想定と引き比べながら、（映画作品のなかで）しだいにゾンビ化する人間の意識（consciousness）やセクシュアリティについて考えようとする論文がある。

この度のゾンビ映画研究会では、前回に引き続き2本の英語論文を取り上げ、ゾンビ研究の裾野の広さに改めて目を向けてみたい。

【発表】

第1発表(25分)+第2発表(50分)+討論

1 中里昌平（学習院大学人文科学研究科身体表象文化学専攻博士後期課程）

「戦争とゾンビ——Christopher Coker, “Dying to Fight: Some Reflections on Zombies and War”, in *International Politics Reviews*, Vol. 1 (2013, pp. 91-99) を手掛かりに」

2 関根麻里恵（学習院大学人文科学研究科身体表象文化学専攻助教）

竹内秀一（学習院大学人文科学研究科身体表象文化学専攻博士後期課程）

「ゾンビと意識、ソシオセクシュアリティ——Steve Jones, “Pretty, Dead: Sociosexuality, Rationality and the Transition into Zom-Being”, in *Zombies and Sexuality: Essay on Desire and Living Dead* (Shaka McGlotten/Steve Jones [Eds.]) (Jefferson: McFarland, 2014, pp.180-198) を手掛かりに」

【申込方法】

参加を希望される方は、下記メールアドレスまでご連絡ください。
折り返しZOOMのURLをご案内いたします。

guscscr1@gmail.com